

## 周辺環境を考慮したキャンパス・オープンスペースのデザイン

熊本大学工学部 学生会員 ○納富 友紀子  
熊本大学工学部 正会員 小林 一郎

熊本大学工学部 正会員 星野 裕司  
熊本大学工学部 学生会員 青井 克志

### 1、背景・目的

現在、日本の大学において、それぞれの持つ場所性を十分に活かしてキャンパスがデザインされたものは少ない。熊本大学（南地区）もその一例であり、敷地内のみしかデザインされておらず、外に対して閉じた状態となっている。また、南地区において近年進められてきた将来計画に基づく建設や整備なども中途半端な状態となり、新旧関連のない計画が混在したキャンパス内のオープンスペース（広場、入口、道、駐車・駐輪場、緑地）は有効に利用しにくいのが現状である。

そこで、熊本大学南地区およびその周辺を対象とし、オープンスペースを中心に、使い手の立場に立ち、周辺地域の特徴や人の流れも内部に反映させたデザインを行う。

### 2、対象地の概要

明治時代創立という大変歴史のある熊本大学は、中心市街地に近いにも関わらず、豊かな自然に囲まれた環境にある。

創立時、学生・教官は学内の寮で寝起きの生活をしていたが、それは次第に周辺へと広がり、現在、大学に密接して、それを囲むように学生の生活がある。

キャンパスは、旧国道57号線により理・工学部のある南地区と法・文・教育学部のある北地区に分断されている。（図-1、2）

### 3、南地区および周辺の詳細調査

まず調査として、周辺の特徴や南地区各オープンスペースの使われ方・つながりに着目した「現地調査」を行った。しかし、この調査では周辺の詳細について不明な点が多く、使い手の立場に立ったより良いデザインをするためにも周辺で生活している学生達が日頃から感じていることや行動を把握することは不可欠であると考えた。そこで、「実態調査」として、周辺に重点を置いたアンケートを実施した。概要を下記に示す。

- ・主な質問内容・・・（地図上に記入）通学路、生活路、よく行く場所 →行動  
（記述形式）周辺の良い・悪い点、学内の問題点 →意見
- ・対象者・・・熊本大学の土木・建築系の学生・教官（約700人）→回収率50%（345人）

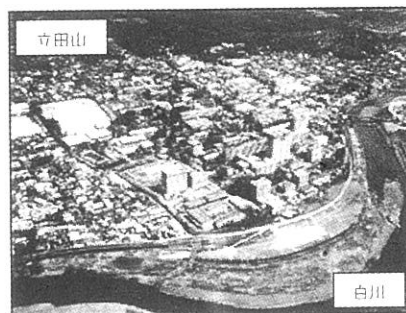
### 4、調査結果の分析

#### 1) 分析の流れ

はじめに、行動や意見、現地調査で気付いた点をより視覚的に把握するため、下記のMAPを作成した。

- ・周辺MAP（生活路・よく行く場所、周辺の良い・悪い点をまとめたもの）
- ・境界MAP（通学路、大学と周辺の境界付近における現地調査・意見をまとめたもの）
- ・学内MAP（学内の現地調査や意見をまとめたもの）

そして、これら3つのMAPより南地区および周辺の主な現状や特徴を挙げ、最終的に対象地のあるべき姿を表すコンセプトダイアグラムを作成した。



▲ 図-1：対象地の航空写真



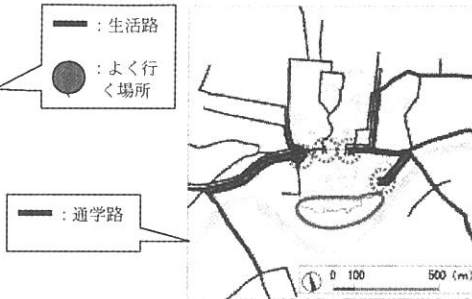
▲ 図-2：対象地付近の地図

## 2) 分析

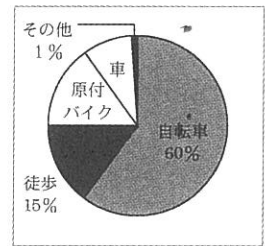
周辺MAPの一部として周辺の人の流れを図-3に示す。行動としては、中心市街地方向への流れが顕著に見られた。周辺の意見では、回答者(302人)の8割が何らかの交通問題をあげた。また、生活や自然環境が良好であるという意見も多くあがった。境界MAPでは、交通手段・地区別の通学路および境界の特徴についてまとめた。図-4に境界MAPの一部として、自転車およびほぼ同じ経路をたどる徒歩の通学路を示した。これは、図-5に示したように、自転車・徒歩で通学する学生が8割近くを占め、重要であると判断したためである。また、入口や河川敷との境界についての問題も多くあげられた。学内MAPでは、現地調査で気付いた点や学内の意見より、各オープンスペースの特徴をまとめた。現地調査と同様に、意見でも交通問題や広場についての問題点が多く出された。表-1にこれらのMAPをまとめた南地区および周辺の現状や特徴を示す。



▲ 図-3 : 周辺MAP一部



▲ 図-4 : 境界MAP一部



▲ 図-5 : 交通手段の内訳

周辺	・(特に旧57号線、橋、北地区東側の道などの)大通りに多くの交通問題があり危険	・生活に必要な店や施設が近くにあり、生活しやすい ・魅力ある自然が多い
境界	・交通が集中する入口が狭く、見通しが悪い ・西側の地区の交通が旧57号線や1つの入口に集中	・河川敷との境界が荒地状態で、白川という自然環境を十分に活かしていない
学内	・人と車の動線が入り乱れており、様々な弊害が発生 ・駐車場が散在しており、露骨すぎる	・魅力ある憩いの場や体を動かせるスペースがない ・緑が多く、季節を感じさせてくれる

▲ 表-1 : 南地区および周辺の現状・特徴

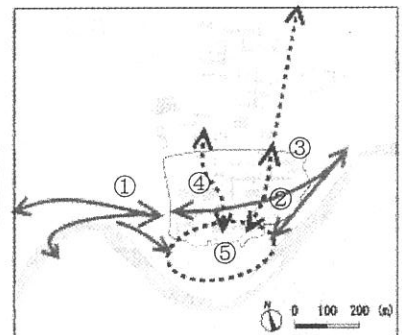
## 3) デザインテーマ

以上のように、現状や特徴を総合的に見ると、主に交通問題と生活・自然環境に大別できた。

①人の流れを考慮した道・入口の整備  
②交通を分散させる東西の軸づくり  
・歩車分離、駐車場の整備等による歩行者・自転車に優しい道づくり

③立田山を望む軸づくり  
④白川へと導く南北の軸づくり  
⑤白川河川敷をも取り込んだ憩いの場の整備

したがって「学内外おける交通問題の軽減」「自然を活かした広場・道づくり」をデザインテーマとした。



▲ 図-6 : コンセプトダイアグラム

## 6、まとめ

本研究では、現地調査に加えアンケートも実施し、使い手の行動や意見を把握した。そのため、より詳細な周辺の特徴や学内の現状を明らかにでき、当初の目標はほぼ達成することができた。しかし、アンケートでは、対象者に偏りがあったため、学内の意見において多少その影響が表れた。よって、対象者として南地区利用者全般を偏りなく均等に選び出せば、地区全体の問題点や学内での行動についてもさらに詳しく知ることができたと思われる。

<参考文献>岡田光正・柏原士朗・森田孝夫・鈴木克彦：建築計画1、鹿島出版会